

清水ヶ丘の風

ハルモニーコール楽事通信第24号

2016年9月24日 発行

§ シリーズ「マタイ受難曲と私」 第2回 §

「マタイ」で始まり「マタイ」で終わる

アルト H.E

山田さんご夫妻と同じ1969年5月5日には私もカール・リヒター指揮ミュンヘン・バッハ管弦楽団・合唱団の「マタイ」を聴きました(和服で)。

その時のプログラムに吉田秀和さんの「私はバッハの中に音楽の頂点を見る人間だ。もしその中で1曲を・・・という破目になったら迷わず「マタイ」を選ぶだろう」という文章に同感し、又、心をふるわせるミュンヘン・バッハの演奏に感激して「この曲をもっと知りたい」と思うようになり、まず楽譜(ヴォーカルスコア)を買いました。

聴き覚えのあるメロディーを見つけては感動していましたが、それだけでは全くもの足りない、何とか「マタイ」の奥義を知りたいと思ってコーラスの一員となることを思いつきました。これが私のコーラスの始まりです。

音楽雑誌で「マタイ」を練習中の宗教音楽研究会を見つけて本番まであと3ヶ月」という時に入団、もちろんロクに歌えませんでした。私の目的は歌うこと以外にあったので、それで充分なものでした。その後、歌えなかったことを悔やんでいたら当時の指揮者・遠山信二先生は翌々年に再び「マタイ」を取り上げて下さり、今度は一応歌ったつもりでしたが、後々に残ったものは「まだ入り口だ」という思いばかりでした。BCJ(バッハ・コレギウム・ジャパン)の鈴木雅明先生のレクチャーに参加したり、数々のコンサートを聴いたり、いろいろの人の文章を読んだりして少しずつ足をふみこんでいくと、今度は泣けてきてしまうのです。特にヘフリガーのエヴァンゲリストが歌う「外へ出て(ペテロが)激しく泣いた」から、アルトのアリア「Erbarme dich」にかけてはもうグショグショです。ソプラノのソロ「Aus Liebe」で泣く時もあるし、バスの65番のアリアでグッとくる時もあり、「泣いている場合ではない」と思いつつも次のコーラスの出に差しさわる事もあります。山田さんのいわれる通り、ヘフリガーのエヴァンゲリストは最高ですね。心からペテロの心情が表わされて、又、自分自身をかえりみると胸がいっぱいになります。

私は1969年の「マタイ」から今回で5回目の「マタイ」となりますが、途中でシェーンベルクの「グレの歌」や「モーゼとアロン」なども経験出来ました。「モーゼ」では、これはバッハの影響かと思われる所もあり、それはモーゼが一人でシナイ山に入ってしまった民衆の前からいなくなった時の音楽は、通奏低音がなくて「マタイ」の「Aus Liebe」のようだと思ったものです。

2000年からはバッハに戻り、ハルモニーでの「マタイ」が私の人生で最後の「マタイ」となる事でしょう。もしオマケが許されるならモテットの No.1「Singet」か、コラールカンタータを歌えたらと願っています。

今回の「マタイ」は泣かないように頑張ります。

(2016年9月8日)

H.シュッツ作曲の「Barabam」のころ。

Handwritten musical score for H. Schütz's 'Barabam'. The score is written on two staves (treble and bass clef) in 4/4 time. The melody is simple and repetitive, with the lyrics 'Bar-ra-bam, Bar-ra-bam, Bar-ra-bam, Bar-ra-bam, Bar-ra-bam' written above the notes.

E.フンケ作曲の「Barabam」

Handwritten musical score for E. Fux's 'Barabam'. The score is written on two staves (treble and bass clef) in 3/2 time. The melody is more complex than Schütz's, with the lyrics 'Bar-ra-bam, Bar-ra-bam, Bar-ra-bam, Bar-ra-bam, Bar-ra-bam!' written above the notes.

私はBachの滅々の和音だけの「Barabam」が一番好きです。

Printed musical score for 'Barabam' from the Notebook for Anna Bach. The score is for voice and piano. It includes parts for Evangelista (Soprano), Chori (Alto, Tenor, Bass), and a piano accompaniment. The lyrics are: 'spra-chen: shout-ed: Ba-ra-bam! Bar-ab-bas! Pi-la-tus sprach zu To them did Pi-late'. The score is numbered 30 and includes the reference number BA 5038-90.

【後記】山田様の書かれた第21号「マタイ受難曲と私」をご覧になったH.E様から手記をいただきました。こちらもやはりリヒターの来日公演がひとつの転機になったとのこと。リヒターが日本のプロ・アマ音楽家、そして音楽愛好家に与えた影響は計り知れませんね。あれから47年、E様が「人生最後の『マタイ』」を歌う場として、ハルモニークールを選ばれたことを思うと、身の引き締まる思いです。

文末に掲載した楽譜は、E様が写譜された、シュッツとフンケの「マタイ受難曲」から群衆の叫ぶ「バラバ！」の部分です。比較のためにバッハの「マタイ」から「バラバ！」の部分も併せて掲載しました。

E様、「マタイ受難曲」への思いにあふれた手記をいただき、本当に有り難うございました。本来は山田様宛の私信としてお書きになったものを、楽事からお願いして「清水ヶ丘の風」として発行させていただくことになりました。ご厚意に厚く御礼申し上げます。

これを機に「マタイ受難曲と私」はシリーズ化したいと思います。メンバーの皆様、ご自身の体験と思いを綴った文章を楽事委員までお寄せ下さい。お待ちしております。

(新井)